

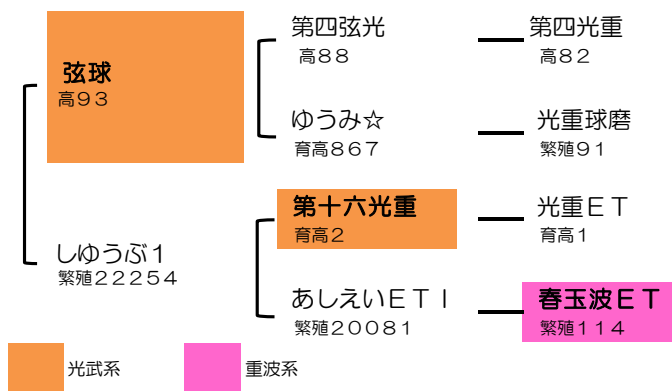
熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2024

だいいちつるたま

褐毛和種種雄牛「第一弦球」の選抜



問 研究のねらいは？

答 熊本県で昔から多く飼われている褐毛和種について、その牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しました。

問 本牛の特徴は？

答 本牛は、当時、ばらの厚さの育種価が県内上位10%以内とトップクラスの母牛に、肉質および増体能力に優れた「弦球」を交配し、作出しました。それぞれの遺伝的特徴を引き継ぎ、現場後代検定では、全体平均でばらの厚さが8.6cm、脂肪交雑のBMSNo.が5.11といずれも歴代最高の成績であり、肉量、肉質両面の改良への貢献が期待されます。

【現場後代検定成績】

(単位: kg, cm², cm)

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばらの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(3等級以上)
去勢 14 頭	25.3	517.9	58.7	8.6	3.8	72.9	5.43	100.0% (14/14)
雌 4 頭	25.2	490.8	58.5	8.5	3.6	73.4	4.00	75.0% (3/4)

【産子の枝肉】



性別	去勢
枝重	523.8kg
ロース	68cm ²
ばら厚	9.2cm
BMSNo.	7
等級	A-4

形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	1.13
ロース芯面積	小さい							大きい	0.75
ばらの厚さ	薄い							厚い	3.44
皮下脂肪の厚さ	厚い							薄い	-1.80
脂肪交雑	少ない							多い	1.96

標準化育種価 (SBV) とは？

各形質の育種価を同スケール上で比較したもの。値が+1以上の場合、改良効果が高い。

畜産研究所 生産基礎技術研究室